

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

70歳代の女性での脊椎アライメントと下肢筋量との関係

1. 研究の対象および研究対象期間

2015年4月から当院整形外科骨粗鬆症外来を受診された70歳代の女性

2. 研究目的・方法

・研究目的・背景

高齢化に伴い、脊椎変性や股関節疾患により、脊椎・骨盤アライメントは影響を受けやすい。脊椎後弯症のQOL (quality of life) 低下に関する要因として、背筋力低下や脊椎可動域低下がある。また脊椎アライメント不良によるバランス能力低下や歩行能力低下をもたらすといった報告がある。しかし、これまでに脊椎アライメントと下肢筋量との関係や、生活にどのような影響を及ぼしているかといった報告はない。そこで70歳代の女性を対象として、脊椎アライメントと骨盤パラメーター、下肢筋量との関係について調査する。

・方法

昭和大学病院整形外科骨粗鬆症外来を受診した70歳代の女性を対象とする。全脊椎単純X線像にて立位脊椎アライメントを計測し、SVA (sagittal vertical axis)、SS (sacral slope)、PT (pelvic tilt)、PI (pelvic incidence)、LL (Lumbar Lordosis) を測定する。Schwabらの健康関連QOL低下をもたらす基準に準じて、 $SVA < 50$; B (Balance) 群、 $50 \leq SVA$; M (Mismatch) 群として2群で分け、統計処理を行いその関連性を評価する。

研究期間

医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、昭和大学病院長の研究実施許可を得てから2020年3月まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：骨密度、レントゲン 試料：血液

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院（医学部整形外科学講座）

氏名：伊藤 博

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8543

研究責任者：

所属：昭和大学病院（医学部整形外科学講座）

研究責任者：永井 隆士